

南白小の未来をえがく！

令和5年6月9日

府中市立南白糸台小学校

校長 西尾 克人

～子供たちの未来が明るくなるように～

校長室だより 第2号

ひばり教室とは…

他者と関わることが少し苦手だったり、こだわりが少し強かったり、文字等をかくことがやや弱かったりするなどの子供が、その苦手さを克服するための教室です。

だれもが、よい面をもち、苦手な面もあります。その苦手さに応じた指導をする教室が、ひばり教室です。ニーズは非常に高く、東京都では学級増が多くあり、教員が不足している状況です。

ひばり教室では、個々に応じた指導を行う「個別指導」と、コミュニケーション能力（ソーシャルスキルなど）を身に付ける「小グループの指導」があります。今日は個別指導について考えていきます。

個別指導で自己肯定感を高める…低学年の指導

ひばり教室では、できることを一つずつ増やし、自己肯定感を高めていくことを大切にしています。

1年間かけてカレンダーを作ることを目的に、5月の指導ではこいのぼりの形をハサミでかたどっていきます。紙を動かす、線にそってハサミを扱うことを通して、微細運動（細かな手の運動）を高めていきます。文字を書くことなどに有効です。



ハサミで微細運動を高める



バランスをとりながら

また、体幹を高めるため粗大運動に取り組み、バランスをとることを学習していきます。教員は、子供ができた瞬間を見逃さず、「すごい、できたね。」「よく渡れたね。」など、できたことをすぐに褒めていきます。

最後に学習の振り返りで、この子供が言った言葉が印象的でした。「**ぜんぶできたから、うれしい！**」自己肯定感を少しずつ高めています。

個別指導で、苦手なことにも取り組む…低学年の指導



体幹を鍛える



トントン相撲を楽しむ

苦手なことは避けて通りたい。これはどんな人でももっている感情です。でも、社会に出れば、苦手なことにもどうしても取り組まなくてはならない時があります。苦手さにどう向き合うか、ひばり教室の学びの一つです。

まず、体幹を鍛える運動から取り組みます。その一つがバランスボールを使った活動です。お腹でバランスボールに乗り、手足を伸ばします。とても難しい運動です。「はじめは、誰でも難しいから大丈夫！」と励まします。学習の最中も、「**友達のことを●●さんと呼べた。すごいね。**」とほめていきます。苦手さに立ち向かう勇気を得ることができるひばり教室です。

体力・運動能力調査に取り組む

全国の学校で行われている調査です。スポーツテストとも呼ばれています。本校は、PTAの方にも手伝っていただいています。

一生懸命、運動に取り組む子供を支えてくださり、感謝です。



保護者の方に支えられる